

第28回 日本篆刻展開催

全国規模の篆刻公募展「第28回日本篆刻展」が、5月15日から20日まで大阪天王寺公園内の大阪市立美術館地下展示会室で開催された。

作品を熱心に鑑賞する参観者



日本篆刻家協会会報

第9号 平成24年9月30日発行
発行：日本篆刻家協会
563-0032 池田市石橋2-2-10-203
TEL 072-760-3852 FAX072-760-3853
E-mail : info@n-tenkoku.jp



会員・委員の作品



台上とガラスケースの特別展覧の古詩箋と箋譜を準備するスタッフ

展覧会は公募作品九十四点に会員・役員の作品計千百二十四点が二室に分け壁面展示され、特別展覧として「中国の古詩箋と箋譜」がケースで展示された。二十日には井谷五雲副理事長による特別展覧の解説が会場で行われ、大勢の参加者が耳を傾けた。



列品解説に耳を傾ける大勢の参加者と井谷五雲副理事長（中央）

審査

第二十八回日本篆刻展の審査会が三月二十四・二十五日、大阪市中央会館で行われた。理事以上の役員を除く一〇六一点を対象に厳正公平な審査により協会賞三点、大賞一点、準大賞九点、優秀賞二五点、奨励賞一〇〇点、特選六二点、秀作一〇一点、会員推薦賞九四点が選ばれた。

主な受賞者

梅舒適賞（評議員）
梶田稲州 木村容庸 関踏青
日本篆刻展大賞（常任委員）
武友早知子

日本篆刻展準大賞（常任委員）
大槻彦喬 宇於崎碧峯 千田法子 浅野春泉
阪口香雪 上田静雲 山本寿法 田中翠仙
坂東香璋

日本篆刻展優秀賞（常任委員）
近藤胡蝶 廣田佳苑 畔原裕美 多田学友
金谷政治 小森香苑 藤縄尚子 内田紅楓
金森喜涉 水上健治 杉本素月 田中九成
長谷川拓石 石留之然 青黄游魚 小國妙子
亀井芝蘭 植野無人 櫻野美久代 田中壽江
濱口韶暉 森原晋作 浅野江涯 藤崎澄子
官丸清華



慎重に審査に当たる審査員

全国から大勢が参加した授賞式



受賞者代表に賞状を手渡す真鍋井蛙副理事長

授賞式

会期の最終日五月二十日、ホテル大阪ベイタワーで開催され全国から二九七人が参加した。各賞ごとに受賞者が紹介され、代表者またはそれぞれに手渡された。

出品者懇親会

引き続き出品者懇親会が開催されみんなで受賞者を祝福した。来賓紹介、祝辞、新役員昇格者紹介が行われ、全国からの参加者が交流した。



謝辞を述べる大賞受賞の武友早知子氏

梅舒適賞の受賞者



全国からの参加者であふれる懇親会場

第四回 日本篆刻家協会役員展

上：こじんまりと落ちついた2階展示室 下：石造りの蔵を美術館にしている会場外観



六月二十三日(土) 第四回日本篆刻家協会役員展の開幕式が天候にも恵まれ、古河市篆刻美術館で大勢の参加者が庭園を埋め尽くすなか、午後一時三十分から白井篆刻美術館館長の司会により挙行された。

眞鍋副理事長の開会のことばで始まり、主催者を代表して尾崎理事長の挨拶、続いて古河市教育委員会の遠藤教育長の挨拶と続き、今年も大村酒居、多田の三幹部役員作品の寄贈目録が尾崎理事長から遠藤教育長に贈呈された。遠藤教育長からのお礼の言葉の中で「篆刻を通して文字ひとつ一つを大事にする、そして言葉を大切にすゝる」そのような教育をしたいと述べていたことが印象に残った。新企画の尾崎理事長による第四回役員展の題字揮毫と、出席役員



全員から姓号の揮毫があつて、酒居代表理事の閉会のことばで開幕式を終了した。

今回も山下常任顧問、尾崎理事長以下六十八人の作品が展示されたが、参観者から、会場一杯に展示された軸装の作品を観て、印影のみならず、書や絵、意匠を凝らした表現など作品すべて圧巻であるとの賞賛の言葉を数多く耳にした。

その後、会場を移動し、市内のホテルにおいて午後二時三十分から記念研究会が九十三名の参加の中、開催された。第一部の講演に先立ち市川代表理事により講演の講師である眞鍋副理事長の紹介があり、演題「園田湖城の篆刻」について約一時間四〇分の講演、iPadを駆使した映像による斬新な講義がなされた。膨大な写真や地図、印影などが拡大投影され、受講者にとつても臨場感があり、また理解し易く受け入れられた。また、



スライドをまじえて講演する眞鍋副理事長

講師持参の参考品



作品指導にあたる市川代表理事

会場には、湖城先生ゆかりの手紙や書籍、刻印等も多数展示され受講者も顔を近づけ、身近に深く見ることができたのは好評であった。引き続き第二部の作品指導会では、三人の講師(尾崎理事長、眞鍋副理事長、市川代表理事)から印稿や印影等の添削指導を受けたが、意表をつくようなアドバイスがあり見学者からも感嘆の声も聞こえた。時間切れを惜しむ中、関野参与から講師への謝辞があり大村副理事長の閉会のことばで記念研究会を閉じた。

次いで記念懇親会に移り、臨席の古河市の文化課長、館長、係長、協会役員が分かれて一般参加者の中に着席し、大村副理事長の乾杯の音頭により宴が始まった。各テーブルでは平素、話を聞くことも出来ない方たちとの会話も弾み、終始和やかな中にも有意義な時間を過ごすことができた。宴もたけなわながら帰宅の足のこともあり、松本常務理事の手締めでお開きとなった。(杏壇篆会 青木雄山)

第五回 中央研究会

第五回日本篆刻家協会中央研究会が、平成二十四年八月十八日(土)から二十日(日)の三日間、シーサイドホテル舞子ビラ神戸で開催され、全国から百六十四名が参加した。

古詩箋の前に講義する井谷副理事長



舞子の間での添削指導



沢山の古詩箋・箋譜を鑑賞



州赴忠州、至江陵已來、舟中示余第五十韻（庚韻）を分刻するもので、各自に二字・三字もしくは五字が割り当てられ

正午すぎの受付の後、尾崎理事長が挨拶、分刻課題の作品製作について説明をされた。今回の課題は、白居易の詩「江

た。午後二時から、井谷副理事長の「中国の古詩箋について」の講義があり、『羅軒變古箋譜』をはじめ、『十竹斎箋譜』『文美齋百花詩箋譜』、魯迅が尽力して編集し榮寶齋が刊行した『北平牋譜』など、多くの貴重なコレクション

シヨン鑑賞することができた。詩箋に情熱を燃やした魯迅のことを紹介されながら、有名な古詩箋について解説され、箋紙・箋譜に対する理解が深まった。著名画家の花鳥や美人画・山水図が、彫り師・刷り師によつて箋紙上に見事に表現されるこの世界はとて魅力的で、その緻密さや品格の高さ・製版技術の精度の高さは驚嘆すべきものがある。魯迅が、箋紙購入にかなりのお小遣いを費やしたのも首肯できる。箋紙の何ともいえない風合いを楽しみながらの眼福のひとつときは、時間を忘れるようであった。しばしその余韻に浸りながら、夕刻からは各自

上：尾崎理事長（左端）の講義を聞き入る参加者 下：手元をスクリーンに映し出して解説する真鍋副理事長



篆書の参考品を鑑賞



揮毫実演する平田副理事長

分刻課題作品を講評する大村副理事長



ジャンケンで盛り上がる懇親会



印社代表者会議



製作に入り、舞子の間では出田・喜多・黒田・武井・多田各先生による添削指導が行われた。

二日目は朝食の後、印社代表者会議があり、午前中は各自作品製作、舞子の間では酒居・小・中村・松本・保田各先生による添削指導が行われた。昼食の後、午後二時からは、尾崎理事長の「篆書について」の講義があり、殷の甲骨文字から漢の印篆までの篆書の各書体の変遷を解説され、篆刻の基礎には篆書の学

習が不可欠であることを強調された。また、ご自身のコレクションの中から、甲骨文・金文の拓本や何紹基旧蔵の泰山刻石二十九字本（明拓）、さらには呉大澂・呉昌碩など清・民国の諸名家の篆書立軸を陳列してくださり、参加者は丁寧に鑑賞していた。なかでも、陳介祺旧蔵の秦陶量銘の原拓は圧巻であった。その後、篆書の実技講習があり、まず真鍋副理事長が篆書の基本的な用筆法について、逆入平出や間架結構などを解説し、甲骨文・金文・小篆の用筆法を実演し、作品を揮

毫された。次に井谷副理事長は、主に徐三庚と天癸神識碑の關係や趙之謙の露鋒を用いた独特の用筆法について、それを筆蝕から分析、実演解説され、最後に作品を揮毫された。山下顧問は、ハケを使った斬新な用筆法を披露され、尾崎理事長・平田副理事長・大村副理事長も隣りに作品を次々と揮毫され、会場はおおいに盛り上がった。諸先生方の揮毫の様子巨大スクリーンに映し出され、参加者は理解しやすく得るところが多く、大変有意義な講習であった。午後四時半か

らは企画委員会があり、夜の記念懇親会では上期展覧会成績の発表披露の後余興、その景品が先刻の六人の先生方の実演作品とあって、ジャンケン勝ち抜き大会は真剣そのものであった。

三日目は、チェックアウトの後集合し、分刻課題を提出した。大村副理事長から講評があり、今回は文字の間違いは少なかったが、文字調べは慎重にするよう再度強調された。二十五年度は、八月二十四日（土）から二十六日（月）に同じ会場の舞子ビラで開催する予定で、参加者は再会を約束しあって解散した。
（研究部平松晃一）

三月課題 「強其骨」

役員(喜多芳邑選)



杏葉



章石



繁治



明峯



祥雲

常任委員(古溝幽畦選)



鏡水



瑞邦



惠草



和香



彦裔

委員(松本雅至選)



静二



紫泉



芳泉



大



貴美子

會員(御手洗眉山選)



游月



極浦



雨琴



倫子



博則

一般(保田昌石選)



光昭



保雄



勝山



鈴輪



石舟

役員(小朴園選)



明峯



踏青



克彦



睦苑



九郎

常任委員(伊佐治祥雲選)



静雲



美華



一六廬



静山



壽江

委員(石原豊玉選)



紅絲



正明



宝樹



道男



平峰

會員(出田塘段選)



康生



正和



凌峰



蘆山



華紅

一般(伊藤雅夫選)



桃苑



美希



之信



碧水



智子

四月課題 「不飛不鳴」

役員(喜多芳邑選)



杏葉



章石



繁治



明峯



祥雲

常任委員(古溝幽畦選)



鏡水



瑞邦



惠草



和香



彦裔

委員(松本雅至選)



静二



紫泉



芳泉



大



貴美子

會員(御手洗眉山選)



游月



極浦



雨琴



倫子



博則

一般(保田昌石選)



光昭



保雄



勝山



鈴輪



石舟

役員(小朴園選)



明峯



踏青



克彦



睦苑



九郎

常任委員(伊佐治祥雲選)



静雲



美華



一六廬



静山



壽江

委員(石原豊玉選)



紅絲



正明



宝樹



道男



平峰

會員(出田塘段選)



康生



正和



凌峰



蘆山



華紅

一般(伊藤雅夫選)



桃苑



美希



之信



碧水



智子

五月課題

「白雲深處」

役員 (多田龍淵選)



祥風



繁治



克彦



燕安



弘深

常任委員 (黒田玉洲選)



芝蘭



尚石



皋仙



韶暉



沙舟

委員 (黃平齋選)



笙山



芳泉



墨石



群蛙



柳石

會員 (榊原晴夫選)



智香



扇舟



矢岳



千鶴



梅風

一般 (佐川大羊選)



勝山



一哉



菰田



正男



勝竹

〔役員〕 得永春水

○村田祥風 木村容齋

○増田繁治 渡邊尚石

○名倉克彦 荒崎浄仙

○古野燕安 原田孝風

○高野弘深 藤田孝風

○上松狂夢 今西九郎

○吉田宗里 重原祥雲

計三十八人

〔常任委員〕

○長谷川拓石

○大井彦齋

○丸山沙舟

○田中泉仙

○瀨口韶暉

○丸山蘇嶺

○青木鐵生

○寄田龍神

○稲垣竹扇

○倉野看雨

計七十八人

〔委員〕

○矢田高秋

○谷川松雲

○山口照影

○安井芳泉

○長谷山墨石

○田原群蛙

○八木正明

○笹倉柳石

○淺野道勇

○松永平峰

○森俊吉

計七十八人

〔會員〕

○土屋功勝

○大野勝香

○和田扇舟

○松本矢岳

○井川千鶴

○林峰苑

○長沼梅風

○荒井典忠

○長澤蘆山

○加藤清城

計八十八人

〔一般〕

○三井顯郎

○北出史郎

○長部石舟

○宮坂菰田

○清水正男

○龜谷正忠

○廣森勝竹

○板屋智子

○飯田公一

○國江碧翠

計二十八人

六月課題

「今是非非」

役員 (中島春綠選)



踏青



泰軒



燕安



祥雲



惠苑

常任委員 (南岳泉靈選)



瑞邦



韶暉



游魚



草翠



桃園

委員 (武井岳峰選)



雙龍



紅絲



笙鶴



美智子



墨石

會員 (堤白遊選)



清光



龍生



凌峰



春壽



博則

一般 (中村葉舟選)



碧翠



勝山



正男



之信



勝竹

〔役員〕 村田祥風

○今村重綱

○岡田扇舟

○丸田拓川

○山崎八雄

○重原祥雲

○藤田孝風

○淺野祥雲

○阿部祥藏

○細間青露

計三十八人

〔常任委員〕

○篠浦錦風

○岡上汀華

○大槻彦齋

○永井恵子

○渡邊尚石

○藤繩尚子

○井本敏子

○武友智子

○小澤博石

計七十八人

〔委員〕

○内匠俊夫

○池谷宝樹

○荒川桂樹

○西口巖映

○廣田笙鶴

○松野碧泉

○川久保明

○長谷山墨石

○山内真波

○岩田耕烟

○菅白峰

計八十八人

〔會員〕

○五十嵐忠

○森清光

○松村信天

○荒井野恵

○渡邊尚石

○金内三子

○伊藤博則

○井上江洲

○吉田申隆

○清水信昭

計八十八人

〔一般〕

○金子光昭

○板屋智子

○北出史郎

○大野勝山

○三井顯郎

○吉田豊

○廣森勝竹

○武田之信

○小澤一哉

○大崎三嘉

○伊神千博

○木村笙山

計二十八人

七月課題

「心画」

役員(渡邊和琴選)



踏青



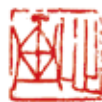
立女



章石



惠苑



祥風

常任委員(長谷川帰海選)



游魚



蘇碩



紅舟



韶暉



敏子

委員(古溝幽畦選)



桜泉



芳泉



明



春冷



道男

會員(松本雅至選)



美好



芳翠



英昭



千鶴



宏燿

一般(御手洗眉山選)



勝山



香之



智子



登



碧翠

【役員】

- 増田繁治
- 浅良朱華
- 竹内立女
- 古瀬登石
- 原田惠苑
- 村田祥風
- 今村重嗣
- 土井純司

【常任委員】

- 増田繁治
- 青黄游魚
- 丸山蘇碩
- 遠藤孝人
- 坂正步
- 古野燕安
- 今西九郎
- 岡田桂舟

【委員】

- 西田静雲
- 上田鏡水
- 近藤胡蝶
- 永野草翠
- 松本弘碩
- 川久保明
- 浅野道男
- 小堀蒼洋
- 川端春峰

【會員】

- 荒原美好
- 山崎游石
- 松永登峰
- 大江清風
- 内木場八夫
- 井本亮石
- 三原大
- 西園真美子
- 松野碧泉
- 山崎游石
- 松永登峰
- 大井芳泉
- 川久保明
- 浅野道男
- 小堀蒼洋
- 川端春峰

【一般】

- 石田幹男
- 石島深州
- 牛島鏡輪
- 三井顔了
- 大野勝山
- 浦岡香之
- 板屋智子
- 水登
- 中登
- 國江碧翠
- 中島保雄
- 北岡弘子

八月課題

「千秋願」

役員(山下方亭選)



祥雲



繁治



弘深



立女



朱華

常任委員(保田昌石選)



彦齋



青桐



敏子



尚子



紳丘

委員(伊佐治祥雲選)



素翠



墨石



明



榴華



翠龍

會員(石原豊玉選)



典惠



千鶴



英昭



博則



梅風

一般(出田塘葭選)



顔了



之信



幽篁



香之



石舟

【役員】

- 阿部祥蘆
- 南詠代
- 浅野祥雲
- 南正步
- 増田繁治
- 坂正步
- 竹内立女
- 原田惠苑
- 村田祥風
- 今西九郎
- 岡田桂舟

【常任委員】

- 小澤博石
- 水野和香
- 長谷川素翠
- 高橋裕進
- 荒井典惠
- 高橋裕進
- 浦田昌苗
- 三井顔了
- 北岡弘子
- 武田之信
- 宮坂菟田
- 遠藤幽篁
- 石場深州
- 中島保雄

【委員】

- 中山翔石
- 管白峰
- 津堅康風
- 山下登雲
- 佐藤翠龍
- 岡田泰吉
- 長沼梅風
- 土屋功勝
- 福谷華紅
- 須田桃苑
- 國江碧翠

【會員】

- 大野勝山
- 北岡弘子
- 宮坂菟田
- 石場深州
- 中島保雄
- 浦田昌苗
- 高橋裕進
- 浦田昌苗
- 三井顔了
- 北岡弘子
- 武田之信
- 宮坂菟田
- 遠藤幽篁
- 石場深州
- 中島保雄

【一般】

- 大野勝山
- 北岡弘子
- 宮坂菟田
- 石場深州
- 中島保雄
- 浦田昌苗
- 高橋裕進
- 浦田昌苗
- 三井顔了
- 北岡弘子
- 武田之信
- 宮坂菟田
- 遠藤幽篁
- 石場深州
- 中島保雄

各印社活動 トピックス

第二十七回 隨風會篆刻展



第二十七回隨風會篆刻展

風會篆刻展の特筆すべきところはなんとといっても韓国篆刻学会との交流です。日本篆刻家協会は海外との交流を数多く行ってきましたが、独自の印社で韓国を代表する「韓国篆刻学会」との交流は初めてではないかと思えます。代表の山下先生のお話によるとその発端は中国杭州の西泠印社創立二〇五周年記念大会の折、壇上で韓国篆刻学会会長、権昌倫先生とご一緒したことに始まり、代表自らがソウルに出向き権会長と接見してこの交流が決定したということです。韓国側作品は権会長以下二十四点、平成二十四年四月三日〜八日まで京都市美術館で開催された第二十七回隨風會篆刻展で交流陳列されました。

当会は交流展を踏まえ全紙サイズに日本の詩歌を題材に作品製作、対印聯、分刻、篆刻体験コーナーも継続して行いました。

特別陳列は「日・韓・中の銅鏡」等を展示。代表の発案で会場内に和鏡の採拓コーナーを設け、昨年同様東日本大震災の義援金として募りました。その結果は七五〇八三円、山下先生からの三万円を合わせて一〇五〇八三円を読売愛と光の事業団に寄託、翌日の読売新聞朝刊にその旨が掲載されました。

最終日、京都国際ホテルに於いて開催されたこの交流展の祝賀会には権昌倫先生以下来日の韓国篆刻学会の十五名の先生方、協会理事長以下役員の先生方にもご出席頂きました。平成二十四年十一月九日より韓国ソウルに於いて韓国篆刻学会との交流展に隨風會会からは三十一名の作品を出品、十一月八日から十三名が訪韓して交流を深める予定です。(下井嶺集)

第三十四回 北庄篆刻展

書法・篆刻・金石



七月二十七日から二十九日まで福井県立美術館で開催された。隔年開催が会場の都合で三年ぶりの開催となった。会員の篆刻・篆書の創作作品三十四点と蘇東坡詩西湖ほとりの分刻作品二十点を陳

列した。特別展観として「中国古代金石拓本」を展示し、また「中国古代文字について」を掲示した。朱白の美と篆書の象形文字に多くの来場者の注目を得た。これも偏に関係各位のご協力の賜物と感謝申し上げます。(多田龍淵)

六轡会 VS 一隅会展



八月二十三日から二十六日まで、京都文化博物館において、六轡会 VS 一隅会展を催した。これは夫々の三十一回展・二十回展である。六轡会は井谷五雲・小朴圃・真鍋井蛙、一隅会は池田泥異・喜多芳邑・黒田

玉洲・南岳采露・古溝幽畦の構成で両会ともこれだけ長く続けた実績が、東京はもとより遠く北海道からも熊々駆けつけてくださる方々もあり、また、当協会の会員方には中央研究会直後にも拘らず多くの人達にご来場いただき紙面を借りて御礼申し上げます。

夫々の作品については敢えて紹介を避けるが、両会共に篆刻についてより深く研究会



員相互に競うことで更上一层楼を志向するもので、いきおい古典を掘り下げた作や、篆刻の可能性を探る実験的な作を発表し、その歩みを考え確認することに意義がある。事実この会での発表が数々ある展覧会の中で一番やりがいいもの、また怖くもある。一年のうち一番力が入ろうというもの。人は好敵手を得て真剣に勝負してこそ成長もあることを考えれば、これほど良い会はない。是非皆さんも夫々のグループをつくり更なる高みを期されたいと思う。

二十五日には印章史の研究者・久米雅雄先生、オリエントの印で有名な小田玉瑛先生を迎え、協会からは尾崎理事長以下役員の方々の参加を得て懇親会を行い、これからの篆刻のあり方について大いに語りあい、意義深いものとなったことを記して報告とします。(小朴圃)

各印社の活動報告を事務所までお寄せください。(HPにも使えるようなるべくメール等デジタルデータで)

側款の書き方(二) 真鍋井蛙

④ 五鈴竟齊 吳昌碩



⑤ 吳懸藩伯寅平生真賞 趙之謙



⑧ 昌碩 吳昌碩



⑨ 李俊 河井奎廬



⑩ 中海珍藏 吳謙之



⑪ 大聾 吳昌碩



⑫ 東作之印 河井奎廬



⑬ 臣履填印 陳秋堂



④は「昌碩吳俊」とあり、これは字+姓名となつてゐる⑩「長伯真鍋昌生」とすればよい。よく文雅な年賀状に「井蛙真鍋昌生」とするのはこれである。⑤と⑥は姓名を刻した例、真鍋井蛙と刻せばよい。⑥は我邦河井仙郎の刻。「河仙郎」は井を取つて中国風の単姓にし、かつ仙郎の二字はあたかも一文字に見える配置にし、単姓単名の中国風にしてある。私なれば⑥「真昌生」とすればよい。このように中国風の名にすることを修姓というが、私であれば真昌生あるいは真昌、そして韓天衡先生からいただいた陳天刃(陳は井蛙陳人の陳、天は素晴らしいの意、刃は印刀もしくは私の趣味の日本刀をさす)を使用するのによい。ちなみに梅舒適先生の本名は稲田文一。⑦の「吳大聾」は姓+号である。我邦では書類等に真鍋井蛙と常用するが、本来は他人を称するに用い、自称することは稀である。よつて「真鍋井蛙」という側款はあまり使用せぬ方がよい。⑧は「缶道人」道人は有道の人をいい、また道家の法を修める人をいい、さらには仏法に帰依する人をも称するようになった。

一般的には、秋草道人のよう

⑦ 樊家毅印 吳昌碩



⑧



⑨



⑩



⑬ 青篁深處 楊龍石



⑭



⑮



⑯



に号をつけるが梅先生は晩年「梅道人」と署しておられた。

⑨は「茶廬生」。生は文士の総称である。⑭「井蛙生」となるうが、どうも「山本山」みたいで舌をかみそうになる。

⑩⑪はそれぞれ「讓翁」「老缶」これは名・字・号の一字に翁・老などを併書する例である。梅舒適先生はよく「老梅」とされたがこれは姓に老を付したもので、例外。「老〇」とする時に〇は生き物か器物、形あるものがよいであろう。「老舒」ではあまり意味が無いと

いつておられた。私なれば⑩「老蛙」。この翁や老はいったい何歳頃からつければよいかという質問があるが「曲礼」に七十を老というところ。一般には五十以上を老と称する。

翁・叟なども同様である。なるほど、私も最近体力の衰えを感じるはずである。

また⑫のように姓名に本籍地を冠することがある。これを郷貫または本貫と呼んでいる。「錢唐陳豫鐘」の錢唐は県名。⑬の「吳江龍石」は号のみに郷貫を冠したものの。私であれば⑰「贛州真錫昌生」「贛州井蛙」となる。通例として香川井蛙ではなく古名の贛州の方がよいであろう。(つづく)

特集

— こどもの篆刻 —

新理事長の所信表明にある篆刻の裾野の広がりの一つ、小中学生への篆刻を普及するために、取り組み事例を集め紹介する。

▽随風會会報

『龍文』八八号の記事から

「篆刻少年」に出会う

随風會和歌山教室・泉の森教室合同の展覧会「随風會紀州篆刻展」が平成二十三年十一月二十九日から十二月四



日まで、NHK和歌山放送局「ギャラリーわかまる」で開催されました。この展覧会はNHK和歌山放送局の取材を受け朝・夕二回の放映、地元新聞二社に記事が掲載され、会員の山本寿法さんがラジオのトーク番組に出演し放送されるなどマスメディアのご協力もあつて多くの来場者がありました。例年通り会場内で「篆刻体験」も行われその参加者の中に石を刻すことが大好きという少年尚之君（小学三年生、現四年生）がいました。

— 山下随風會長の感想 —

「今回の最大の収穫はなんといっても『篆刻少年』の出現である。この年齢から篆刻をやれば、将来は必ずや大家になるに違いない。そう思える資質を備えた子供であった。石を刻すことが大好きな少年はそこらの道路の石まで彫ってしまうと嬉しくなってくる。布字している状態からであるが難なく刻してしまう。刀のさばきが抜群で、大人のように刃先だの角度だの考えることなく刀が動いている。こんな刻すことが好きな子供に巡り会ったことが今回の収穫であった。来年四月の京都市美に招待して会場内で刻してもらうことも考えているが、本人と親の了解を得なくてはならない。」

篆刻大好きな小学三年生！

会期六日間のうち四日間も体験コーナーに来られた小学三年生の男の子がおりました。名前は尚之君と言います。学校が終わり、家で宿題を終えてお母さんと一緒に来られます。本当は毎日体験コーナーに来たかったのですが、宿題を終えることが出来ず、泣いてお母さんに訴えたそうですが叶わなかったとお聞きしました。

私たちは尚之君とお会いするのは、初めてです。尚之君は予め布字をした印材の中から「龍」を手にとり、刻し始めました。とても速いスピードでどんどん刻して完成です。また浅く刻してあります。そばであくせく刻している大人の方は、ただただ呆れ顔でビツクリしていました。これが四日間、同じ調子で「寿」や「尚」もどんどん完成です。

土曜日や日曜日にはお母さんは弟さんも連れてこられました。弟は兄のすることを真似るのが常です。同じように二人並んで楽しんでいました。

どうやらお母さんも篆刻を楽しまれている様子。印刀もご自宅より持ってきて来られて、兄弟はこれを使って刻していました。会期の最終日にはご多忙の中、山下先生がお越し下さいました。尚之君のことを知り、刻した印を見ら

れて「側款」のことを話され、早速「尚之刻」と刻されました。大切な「宝物」となることでしょうか。お母さんにお聞きすると石に刻することが好きで、拾ってきたては「鑿」と「金槌」で挑戦。『固い！』と言っておるそうです。これから何年か先に「会員」となってくれるでしょうか？

四月三日から京都での随風會展のながきをお渡ししました。尚之君は「行きたい！」と言っておりました。お待ちいたしております。



尚之君は、本年四月に京都市美術館で開催した随風會篆刻展にも二度来て体験コーナーで夢中になって刻していました。



▽子供篆刻教室を開催して



毎年夏休みになると芦屋市の公民館主催になる各種の子供教室が開催される。私はもう十年以上続けている。芦屋市の子供達は自分の好きな教室に応募するのだが篆刻教室は毎年人気で百人を超す応募があり抽選となる、今年は六十八人が石に向かって格闘し子供ならではの印が出来上がった。



一字印、動物、昆虫など楽しい印が出来上がり葉書に押しつけて色を加えた作品とした。清友篆刻展に陳列してまた喜んで貰えるだろう。(随風會 坂本舜華)

▽小学四年生からの篆刻

幼稚園で書道教室をしています。四才で自分の名前すら書けない子供達が、字を覚えにやってきました。「書けない」と泣いて私を困らせますが、卒業後も多くの子が継続して教室に来てくれています。学習塾や水泳等、今の子供たちは毎日忙しいです。その中、書道教室に続けて来てくれることは、私の大きな喜びです。

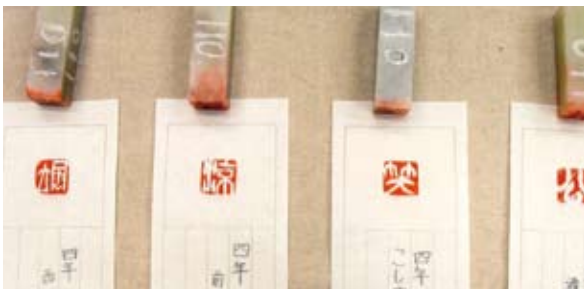
そんな子供達に、少しでも書道の楽しさを体験してほしいと、二年に一度展覧会をしています。全員が四種類の作品を作ります。その中で一番のメイン作品として、四年生以上は大きな筆で条幅作品を書き、自分で刻した姓名



印を押印し、掛け軸に仕上げています。

子供でも本物の用具を使わせます。印面にペーパーをかけ、朱墨をすって小筆でぬります。名前の一字を字書で調べ好きな字を選び、紙に鉛筆で何度もデザインして印稿を作ります。薄い半紙を印稿にのせ、丁寧に一番良いのを書き写し、その上をマジックでなぞります。その半紙を裏返し、見えたままを紙に練習してから印面に鉛筆で下書きし、少し直しながら最後にマジックで仕上げます。(小筆はいやがるので使いません)

その後、印の側面に「十」「〇」をマジックで書き、刻し方の練習をします。印刀はいつも私が使っているものを集めて持っています。



ます。石を手で握り、恐々刻している子供達に「失敗したら助けるから、朱と黒の間をしつかり見て思いつきり刻せ。」と指導します。刻し上がると印面を洗い、印泥をつけて半紙に押印します。刻し残しは、私

が直接印面にマジックをぬって示してやると、補刀をして自分で仕上げます。「うまい！上手にできたネ」とほめると皆笑顔でいっぱいになります。

その後、条幅作品が書き終わった時に、印を自分で押させます。へんになっても、ドキドキしながら押印することも、大切な体験だと考えています。

小学生でも篆刻は出来ます。「ハンコ作りたかった」と言ってくれる女の子。印の側面全部であみだくじを刻し、遊びだす子供もいます。子供達のそばで見守り、いっぱいほめてやれば、皆自分なりの楽しさを見つけ、やる気を持ってくれます。いつも、皆の笑顔の手助けをチョコッと出来たらと思っています。(齊平篆会 関 踏青)

▽小中学生の篆刻を募集する前に

日本篆刻家協会では小、中学生の部を募集するとなれば、只掛け声だけでなく、実態を把握した地道な取り組みの中で現実的に可能な方向性が求められる。このような小学生や社中で行っている子供達の篆刻体験者が対象となるので、今から小中学校の先生方と子供を指導する塾の先生方に協力をお願いしなくては実現をみないだろう。

(常任顧問 山下方亭)

日本篆刻家協会 「出版物」の頒布について

会員・篆刻愛好者の書道・篆刻研究や自己啓発のため「出版物」を頒布します。希望の方は下記により申し込んでください。(在庫限り、申込順)

《申し込み方法》

○氏名(姓)・会員CD・住所・電話番号・書名・希望冊数を記入の上、日本篆刻家協会事務所宛に申し込む。

日本篆刻家協会 事務所
〒563-0032大阪府池田市
石橋2丁目2-10 牧野ビル203号
FAX 072-760-3853
E-mail : info@n-tenkoku.jp

○送金は郵便振替口座または現金書留で送る。

口座番号:00970-1-58041
加入者名:日本篆刻家協会

○入金確認の後、出版物を送付する。
(送料は協会負担)

発行年	書名	頒布価格
平成17年(2005)	展覧会図録 第21回日本篆刻展 特別展観：高芙蓉とその周辺の人々 李駱公篆刻作品 中国招待：広西壮族自治区著名篆刻家作品	3,000円
平成18年(2006)	展覧会図録 第22回日本篆刻展 特別展観：楊龍石の書画篆刻 中国招待：内モンゴル自治区著名篆刻家	3,000円
平成19年(2007)	展覧会図録 第23回日本篆刻展 特別展観：中国古銅印譜	3,000円
平成20年(2008)	袁枚 百美新詠印集	1,500円
平成21年(2009)	展覧会図録 第25回日本篆刻展 特別展観：日中名家刻印	3,000円
	日本篆刻家協会創立25周年記念 日中名家刻印選	7,000円
平成22年(2010)	展覧会図録 第26回日本篆刻展 特別展観：丁家秘蔵・丁仁の書画篆刻・その他	3,000円
	論語印集 第2回中央研究会分刻印譜	5,000円
	中国名家楹聯集	4,000円
平成23年(2011)	展覧会図録 第27回日本篆刻展 特別展観：唐代の書と文物 海外交流：台湾印社	3,000円
	對句對語印集	5,000円
平成24年(2012)	展覧会図録 第28回日本篆刻展 特別展観：中国の古詩箋と箋譜	3,000円
	日本千字文印集	5,000円

展覧会成績

第二九回読売書法展

準大賞 真鍋井蛙
俊英賞 関路青
奨励賞 川崎白水 大村雪陵
特選 浅野和泉 井後雅堂 田原真山 永井龍法

第五八回全関西美術展

日本書芸院大賞 永井龍法
全関西美術展賞佳作 関路青
日本書芸院賞 永野久美子 小林千影 中山翔石 畑間青露
村田祥鳳 山本寿法

秀逸

浅良朱華 的場少藍 梶川久美子 北田成磊
渋谷蒼江 西口青映 庭田露舟 畑間青露
坂東香璋 東尾高岳 松井翠香

青鏡忘詠五

小朴園

「幅を拡げる」

中国の篆刻家を見てみると古典的なものから斬新な作風まで、時代別の作家別に実によく刻り分け、作品の幅の広さに驚かされる。古典を否定しているのかのような超斬新な作品を刻しているかと思うと、一方で宋元の朱文印もよくする、というのだから…。考えてみると、この精密な印が刻せるからこそ斬新な作品を刻しても破綻が無いということが。

基礎が身につけていないのに面白いことをしても、結局は独りよがり底の浅いものしかできない、とはよくいわれる言である。その基礎が身についたところで、さあこれから斬新で個性的なものをやるぞ、と言っても、もう清新な感性は無くなっていくということもある。そこ

で基礎的なことをやりながら一方ではそれとは逆なものへも目をやっておく必要もあろう。それら斬新な感性はどこから生まれるか、その方程式はなく、ある時は音楽であったりもしよう。フト何の前ぶれもなくピッとくるものを大切にしたいもの、そういうところに常にアンテナをはっておきたいものだ。

が、無理に新しいものを創り出そうとしてなくても、現代に生きる感性をもって古典に取り組んでいけば、自然と本人しか出せない味が滲み出てくるものもある。

甲骨から金文・古璽、秦漢はもとより隋唐宋元それに文彭から吳昌碩・齊白石はてさてそれ以降の個性的な作家までやることは多い。

「時代ごとく、作家ごとの作風で自用印を刻してみよ」若い頃に梅先生から言われた言葉だ。

月例作品募集（2013年）

	課 題	出 典	意 味
1月	獻淑祥	徐彦伯	めでたいしるしを献ず。
2月	一樹百穫	管子	一樹で多くの収穫があること。百年の大計を得るたとえ。
3月	天地回春律	陸游	天地に春が回ってきた。
4月	美淵澤	晏子	美しい淵と沢。転じて有徳の人の徳をたとえる。
5月	蘭質蕙心	王勃	体と心の美しいことをいう。
6月	山花拂面香	李白	山に咲く花が顔をかすめて香りをはなつ。
7月	吐肝膽	高適	本心を現す。
8月	點鐵成金	閻見後録	鉄を変じて黄金とする。古人の語を活用して名作とするたとえ。
9月	静境求初心	郝經	静かな境地で初心を求める。
10月	入木三分	張懷瓘	羲之の書の墨痕が木の中に三分もしみ込んだ。筆力の強いこと。
11月	鳥不鳴山更幽	王安石	鳥も鳴かず、山は一層ひっそりとしている。
12月	甲午		平成26年(2014)の干支

応募要項

- ① 一般は一般を、一般以外は会員 CD を必ずご記入ください。未記入の場合は審査対象外となります。
- ② 印の大きさは一寸以内、用紙は協会指定印箋（篆社印箋も可）
- ③ 応募は各月 1 人 1 点、締め切りは各月末日（消印有効）

送付先 〒 563-0032 大阪府池田市石橋 2 丁目 2-10 牧野ビル 203 日本篆刻家協会「〇月課題」係

お問い合わせ（協会事務所）TEL072-760-3852

月・火・木・金は 10:00～15:00（昼休みあり）水曜日のみ 13:00～17:00（時間内でも所用のため不在あり）土・日・祝日休み
協会への問合せ・各種申込には会員 CD をご記入ください。

◎年内（1月～12月）の資格変更はありません。雅号・所属印社の変更は6月1日～11月末日に手続き（住所変更は随時）

◎変更・退会をご本人が協会事務所まで書面（FAX可）にてご連絡をお願いします。（印社代表よりの協会への連絡はない場合が多い）

展覧会案内と報告

展覧会案内

- ▼ 畦石舎(小朴圃) 篆刻・書・画
第二七回畦石舎作品展
会期 一〇月六日～七日
会場 京都市日図デザイン
- ▼ 齊平篆会(真鍋井蛙)
第一五回齊平展
併催 本会早期会員松永白州先生西端百年記念展
会期 一〇月五日～七日
会場 大阪くらしの今昔館
テーマ展示「寿字印」
- ▼ 不華篆会(酒居石菫)
デザインとして見る篆刻の展開
不華篆会自作展XX
「和」をサブテーマに生活の中の書・篆刻
会期 一一月二日～四日
会場 伊丹市立工芸センター
同一三日～五日に丹波の森公苑で巡回展
- ▼ 遠邇篆会(伊藤雅夫)
第二二回遠邇篆会篆刻展
会期 一一月三日～一八日
会場 浜松市 クリエート浜松
- ▼ 蝶輝文会(井谷五雲)
第五回蝶輝文会名古屋展
会期 六月一二日～一七日
会場 名古屋市民ギャラリー
- ▼ 一黙会(六碧舟)
一黙会篆刻展
会期 七月一日～一五日
会場 川西市民ギャラリー
- ▼ 蒼文篆会(尾崎蒼石)
草津教室第八回篆刻書画作品展
会期 九月二〇日～二三日
会場 滋賀県立近代美術館ギャラリー
- ▼ 邊見仿厓遺作展
会期 四月二七日～三〇日
会場 アートホール神戸

報告

協会行事

平成二四年度

- 第一回 理事会・新年会
一月九日(月・祝) 大阪錦城閣
- 第二回 理事会・平成二四年度総会
講演会『戦国古筆の魅力』(尾崎蒼石理事長・懇親会)
二月二日(日) ホテル大阪ベイタワー
- 第二八回展 審査準備
三月二四日(土) 大阪市中央会館
- 第二八回展 審査会
三月二五日(日) 大阪市中央会館
- 第二九回 日本篆刻展
〈特別展観：中国の古詩箋と箋譜(本会員所蔵)〉
五月二五日(火)～二〇日(日) 大阪市立美術館
- 第二八回 日本篆刻展授賞式
五月二〇日(日) ホテル大阪ベイタワー
- 第四回 日本篆刻家協会役員展開幕式
講演会
『園田湖城の篆刻について』(真鍋井蛙副理事長)
六月三日(土) 古河市篆刻美術館
- 第四回 日本篆刻家協会役員展
六月三日(土)～八月三日(木) 古河市篆刻美術館
- 第五回 中央研究会
特別講演『中国の古詩箋と箋譜』(井谷五雲副理事長)
講演と実技『篆書について』(正副理事長)
八月二八日(土)～八月二〇日(月)
シーサイドホテル舞子ビラ神戸
- 企画委員会 随時 事務所

予定

常務理事会

- 二月一日(土)
- 平成二五年度
- 第一回 理事会・新年会
一月二四日(月・祝) 大阪錦城閣
- 第二回 理事会・平成二五年度総会・講演会・懇親会
二月二〇日(日) ホテル大阪ベイタワー
- 第二九回展 審査準備
三月三日(土) 大阪マーチャングイズマート(OMMビル)
- 第二九回展 審査会
三月二四日(日) 大阪マーチャングイズマート(OMMビル)
- 第二九回 日本篆刻展
五月二四日(火)～一九日(日) 大阪市立美術館
- 第二九回 日本篆刻展授賞式
五月一九日(日) ホテル大阪ベイタワー
- 第五回 日本篆刻家協会役員展
六月二九日(土) 古河市篆刻美術館
- 第六回 中央研究会
八月二四日(土)～八月二六日(月)
シーサイドホテル舞子ビラ神戸

お気づきのこと、ご意見など
事務所までお寄せください。
MAIL info@n-tenkoku.jp
FAX 072-760-3853

編集後記

☆東日本大震災から一年半を過ぎても見えてこない復興、世界的に厳しい経済状況、最近の日韓・日中の関係悪化等々暗いニュースが駆け巡っています。一方、明るい話題も聞かれています。政府の事業仕分けで「二位じゃだめなんですか?」と指摘され話題となった、スーパーコンピューター「京(けい)」が九月二十八日本格稼働。同じ兵庫県内にある太陽の100億倍の明るい光を放つ「スプリング8」、その10億倍の光を放つエックス線自由電子レーザー施設「sacra」と、いずれも世界最高水準の性能をもつこれらが連携して国際競争に挑むという。さまざまな組織の細胞になる能力のある「人工多機能性幹細胞(iPS細胞)」が開発され、再生医療のほか病気の仕組みの解明や創薬など、医療への応用を目指しているという。 などなど

全国で熱中症が多発したこの夏、節電に踊らされた夏も終わり、急に秋めいてきました。芸術の秋、私たちの季節がやってきました。(S)

編集・会報部
酒居石菫 榊原晴夫
木村容庸 内田真弓